



本郷台中だより

～明日も行きたい本郷台中学校～

令和8年度第3号

令和8年6月26日

文京区立本郷台中学校

校長 工藤 邦彰

○自ら学び、考え、行動する生徒。 ○互いを思いやり、尊重し合える生徒。 ○豊かな心を持ち、心身ともに健康な生徒。

「ふれあい月間」によせて

東京都教育委員会は、6月と11月を「ふれあい月間」と定め、いじめ防止対策をより実効的なものにするための取り組みを進めることとしています。

本校では、この期間に「学校いじめ基本方針」を全教職員で確認するとともに、繰り返し、いじめの定義をはじめ、いじめ防止に向けた基本的な考え方について研修を行っています。あわせて、生徒に対しては、「心のアンケート」を実施し、状況把握に努めています。

「心のアンケート」は、「1」あなたは令和8年4月1日から今日までの間に、いじめと感じたことはありますか」の質問から始まります。「ある」・「ない」の2択で答える質問だけでなく、「2-6」あなたがされて嫌だったことを、できる限り具体的に書いてください」といった記述で回答する質問もあります。各学級では、他の生徒が回答している様子が見えないようにするとともに、アンケート用紙の回収は一人一人、学級担任が回りながら集めるなどの配慮をしています。

「心のアンケート」は、実施後、職員室内のみで内容を詳細に確認していきます。学級担任のみならず、当該学年の副担任、学年主任、生活指導主任、副校長、校長と、少なくとも6人以上の教員で精査します。たとえば、「3」あなたは、いじめられている、またはいじめられているかもしれないという人を知っていますか？または、そのような人がいるのを見たり聞いたりしたことがありますか？」という質問に対し、「知っている(ある)」に○を付けた生徒はもちろん、消しゴムで消した跡(回答を修正した痕跡がある)がある生徒に対しても聞き取りを個別に行うなどして、いじめの早期発見に努めています。

私が精査する中で、気になったのは「4」いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか？」です。95%を超える生徒の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」との回答に安心した一方で、数人の生徒が「どちらかといえばそう思わない」に○を付けており、心配になりました。当該の生徒には、学級担任等から個別に聞き取りをしてもらいましたが、その理由として「いじめられても仕方がないようなことをしている人がいるときもあるから」という回答がありました。実際には「いじめられても仕方がないようなことをしている人」が「現にいる」という訳ではないので安堵したところですが、それを理由として挙げる生徒が数人でもいることについては、非常に複雑な気持ちを抱きました。

多様な考え方をもつ人が集まる学校において、「嫌なことが全くない」ということはほとんどありません。一般社会でも同様です。むしろ、一般社会では嫌なことがあるのは当然とも言えます。そのとき、「嫌なことをされた」という感情だけをもって、「嫌なことをやり返す」ようなことをしてしまったら、どうになってしまうのか、今一度、考え直してほしいと思います。「やられたら、やり返す」といった考え方がいかに危険なものか、社会科歴史分野で学んできていると思いますし、現代の世界情勢を見ても容易に理解できると思います。「やり返されても仕方が無い」と考えるのではなく、嫌なことがあったときにどのように対処するかを深く考え、やり返そうとしている人を見たときには、その人の心に寄り添ってサポートすることで、適切な言動へと導くことができる人になってほしいと願っています。

学校HP「本郷台中日記」をほぼ毎日更新し、日々の様子をお伝えしています。是非ご覧ください！